

令和7年度 鳴滝総合支援学校 学校評価アンケート(前期) 集計結果

	保護者	R7前期実現度				
		よく出来ている	大体出来ている	肯定的な回答の割合	あまり出来ていない	出来ていない
1	子どもは、将来の夢や希望を描けている	18.9%	50.9%	69.8%	28.3%	1.9%
2	子どもは、共通教科で満足感や達成感をもっている	20.8%	58.5%	79.2%	17.0%	3.8%
3	子どもは、専門教科で満足感や達成感をもっている	28.3%	58.5%	86.8%	9.4%	3.8%
4	子どもは、職場等実習で満足感や達成感をもっている	30.2%	54.7%	84.9%	15.1%	0.0%
5	子どもは、学校や保護者が必要と考える「生きる力」を身につけてきている	13.2%	62.3%	75.5%	24.5%	0.0%
6	子どもの目標や学習計画に基づいて計画的な指導を行っている	39.6%	56.6%	96.2%	1.9%	1.9%
7	子どもが理解しやすいように、授業や教材に工夫がみられる	41.5%	54.7%	96.2%	1.9%	1.9%
8	子どもの努力や達成度について、適切に評価されている	47.2%	47.2%	94.3%	5.7%	0.0%
9	子どもが次の目標を持てるように評価されている	45.3%	49.1%	94.3%	3.8%	1.9%

知・確かな学力

徳・豊かな心

体・健やかな体

家庭や地域との連携

	生徒	R7前期実現度				
		よく出来ている	大体出来ている	肯定的な回答の割合	あまり出来ていない	出来ていない
1	将来の夢や希望がある	25.7%	45.7%	71.4%	20.0%	8.6%
2	共通教科で「わかった」「できた」と思うことがある	35.7%	58.6%	94.3%	4.3%	1.4%
3	専門教科で「わかった」「できた」と思うことがある	44.3%	50.0%	94.3%	5.7%	0.0%
4	職場実習で「できた」「やりきった」と思うことがある	35.7%	54.3%	90.0%	8.6%	1.4%
5	いろいろな知識や技能が身につけてきていると思う	32.9%	55.7%	88.6%	11.4%	0.0%
6	先生は、なんのために勉強するのかをはっきり教えてくれる	50.7%	42.0%	92.8%	5.8%	1.4%
7	先生は、わかりやすく勉強を教えてくれる	64.3%	31.4%	95.7%	2.9%	1.4%
8	先生は、学習の成果について、伝えてくれる	47.1%	47.1%	94.3%	5.7%	0.0%
9	学習の成果を知って次の目標をたてている	41.4%	45.7%	87.1%	10.0%	2.9%

10	自分からあいさつをしたり、ていねいな言葉づかいで話することができる	31.4%	61.4%	92.9%	7.1%	0.0%
11	学校のきまりや約束を守っている	65.7%	34.3%	100.0%	0.0%	0.0%
12	ともだちへのおもいやりもち、お互いに協力している	45.7%	48.6%	94.3%	4.3%	1.4%
13	学校や家庭で自分に任された役割があり、実行している	43.5%	44.9%	88.4%	10.1%	1.4%
14	自分の長所がよくわかっている	38.6%	37.1%	75.7%	15.7%	8.6%
15	自分は大切な存在だ、誰かに必要とされていると感じている	22.9%	42.9%	65.7%	25.7%	8.6%

16	食事は朝・昼・夜、欠かさず食べている	47.1%	32.9%	80.0%	11.4%	8.6%
17	清潔にすることを心がけている(例えば入浴や着替え、歯みがきなど)	61.4%	34.3%	95.7%	4.3%	0.0%
18	性と生について学習し、自分の身体を大切にしながら生活をしている	44.3%	44.3%	88.6%	11.4%	0.0%
19	教室や廊下、トイレなどが安全で安心して使うことができる	75.4%	21.7%	97.1%	2.9%	0.0%

20	卒業後の進路や生活について、先生たちに相談できている	21.4%	41.4%	62.9%	30.0%	7.1%
21	卒業後の進路や生活について、保護者に相談できている	24.3%	35.7%	60.0%	30.0%	10.0%

22	企業の協力により、職場等実習ができていることがわかっている	52.9%	35.7%	88.6%	5.7%	5.7%
23	地域のご協力により、郊外演習ができていることがわかっている	41.4%	37.1%	78.6%	12.9%	8.6%

84.8%

85.9%

生徒一人一人が「できていること」や「成長している自分」に気づき、安心して学校生活を送れるようにすることを目的としています。学習内容や生活の難易度が高まる中で、結果だけでなく努力の過程や日々の小さな前進を大切に、それを本人やご家庭と丁寧に共有していくことが、自己肯定感や意欲の維持・向上につながると考えています。
また、学校と家庭が同じ目線で目標や成長を確認し合えるよう、伝え方やタイミングを整えるとともに、家庭での役割についても無理なく続けられる形へと工夫していきます。大きな成果を求めるのではなく、「できた」「役に立った」という実感を積み重ねていくことを大切にしていきたいと考えています。
今後も、生徒の姿を中心に置き、学校と保護者のみなさまが協力しながら、安心して成長できる環境づくりを進めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

全体として数値は大きく崩れておらず、一定の安定した活動が維持されていると評価できます。しかし、「進路・生活に関する相談行動」「職場実習における達成感」「自尊感情」については、重点的な改善が必要です。進路・生活相談については、三者面談や相談窓口の掲示等による「相談の見える化」を進めるとともに、生徒の小さな不安を拾い上げていけるよう、環境を設定してまいります。また職場実習については、実習前の目標設定と実習後の振り返りを一体的に行う仕組みづくりが有効と考えます。自尊感情や他者との協力に関しては、教師による形成的フィードバックの充実を通して、自己効力感を日常的に積み上げていく必要があります。
一方で、あいさつや規範意識の向上は、朝のルーティンや生活指導の一貫性が成果を上げている可能性が高く、今後は良い実践を生徒主体の取組へと発展させられるよう指導を工夫してまいります。短い頻度での関わりと達成の可視化を仕組みとして回していくことにより、後期における向上が十分に期待できると考えます。

	教職員	R7前期実現度				
		よく出来ている	大体出来ている	肯定的な回答の割合	あまり出来ていない	出来ていない
1	児童生徒は、将来の夢や希望を描けている	6.8%	86.4%	93.2%	6.8%	0.0%
2	児童生徒は、「共通教科」で満足感や達成感をもっている	20.5%	72.7%	93.2%	6.8%	0.0%
3	児童生徒は、「専門教科」で満足感や達成感をもっている	34.1%	61.4%	95.5%	4.5%	0.0%
4	児童生徒は、「職場等実習」で満足感をもっている	20.5%	77.3%	97.7%	2.3%	0.0%
5	児童生徒は、個別の包括支援プランに沿った「生きる力」を身につけてきている	15.9%	70.5%	86.4%	13.6%	0.0%
6	個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導を行っている	29.5%	56.8%	86.4%	13.6%	0.0%
7	学習効果を上げるため、指導法の改善に取り組んでいる	38.6%	61.4%	100.0%	0.0%	0.0%
8	児童生徒の努力や達成度について適切に評価をし、個別の包括支援プランの作成や指導法の改善にかかっている	25.0%	70.5%	95.5%	4.5%	0.0%
9	児童生徒が次の目標を持てるような評価をし、児童生徒に伝えている	27.3%	72.7%	100.0%	0.0%	0.0%

10	児童生徒は、自分から挨拶をしたり、場に応じた言葉遣いで話することができる	9.1%	72.7%	81.8%	18.2%	0.0%
11	児童生徒は、学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	34.1%	63.6%	97.7%	2.3%	0.0%
12	児童生徒は、友だちに対して思いやりを持ち、お互いに協力している	38.6%	54.5%	93.2%	6.8%	0.0%
13	児童生徒は、学校で任された役割があり、実行している	43.2%	50.0%	93.2%	6.8%	0.0%
14	児童生徒が自己理解を深められるような取り組みをしている	31.8%	56.8%	88.6%	11.4%	0.0%
15	児童生徒の自己肯定感が高められるように意識して指導にあたっている	29.5%	68.2%	97.7%	2.3%	0.0%

16	生徒に適切な食生活を送れるように指導している	18.2%	63.6%	81.8%	18.2%	0.0%
17	生徒に衛生に関する指導・支援を行っている	25.0%	68.2%	93.2%	6.8%	0.0%
18	性と生について、生徒が正しく理解し、適切な行動がとれるように指導・支援を行っている	31.8%	61.4%	93.2%	6.8%	0.0%
19	校内の施設・設備・備品等の安全を保ち、衛生面にも配慮している	25.0%	70.5%	95.5%	2.3%	2.3%

20	個別の包括支援プランを基に、短期目標や評価を保護者に適切に伝えている	45.5%	47.7%	93.2%	6.8%	0.0%
21	児童生徒や保護者と卒業後の進路や生活について話を共有できている	22.7%	72.7%	95.5%	4.5%	0.0%

22	保護者からの個別の相談に適切に対応している	43.2%	56.8%	100.0%	0.0%	0.0%
23	保護者は、本校の教育の趣旨や目的を理解している	9.1%	88.6%	97.7%	2.3%	0.0%
24	生徒は、企業のご協力により実習が出来ていることを理解している	18.2%	72.7%	90.9%	9.1%	0.0%
25	生徒は、地域のご協力により演習が出来ていることを理解している	18.2%	70.5%	88.6%	11.4%	0.0%

93.2%

学校全体としては概ね安定した評価を維持していることが確認されました。特に「確かな学力」は、計画的な指導や評価結果の活用、教科学習における満足感・達成感の向上により大きく改善しており、包括支援プランと授業改善の好循環が機能していると考えられます。また、「家庭・地域連携」および「教職員」に関する項目も高水準を維持・向上しており、支援体制の基盤は安定しています。
一方で、「豊かな心」の領域では、自己理解や思いやり・協力といった内面的・対人関係面にわずかな低下が見られました。規範意識や行動面は高い水準を保っていることから、今後は短時間でできる振り返りや形成的フィードバックを日常的に取り入れ、自己肯定感や協働的態度を実感できる取組の充実が必要です。
全体として大きな課題は見られないものの、「学力を支える良好な取組を維持しつつ、心の成長を丁寧に支える視点」を今後の重点として改善を図ることで、学校評価全体のさらなる向上が期待されると考えます。

令和7年度 鳴滝総合支援学校 学校評価アンケート(後期) 集計結果

	保護者	R7後期実現度				
		よく出来ている	大体出来ている	肯定的な回答の割合	あまり出来ていない	出来ていない
1	子どもは、将来の夢や希望を描けている	20.9%	48.8%	69.8%	30.2%	0.0%
2	子どもは、共通教科で満足感や達成感をもっている	30.2%	53.5%	83.7%	16.3%	0.0%
3	子どもは、専門教科で満足感や達成感をもっている	34.9%	60.5%	95.3%	4.7%	0.0%
4	子どもは、職場等実習で満足感や達成感をもっている	44.2%	48.8%	93.0%	2.3%	4.7%
5	子どもは、学校や保護者が必要と考える「生きる力」を身につけている	27.9%	46.5%	74.4%	23.3%	2.3%
6	子どもの目標や学習計画に基づいて計画的な指導を行っている	46.5%	53.5%	100.0%	0.0%	0.0%
7	子どもが理解しやすいように、授業や教材に工夫がみられる	53.5%	46.5%	100.0%	0.0%	0.0%
8	子どもの努力や達成度について、適切に評価されている	48.8%	51.2%	100.0%	0.0%	0.0%
9	子どもが次の目標を持てるように評価されている	48.8%	51.2%	100.0%	0.0%	0.0%

10	子どもは、自分から挨拶をしたり、場に応じた言葉遣いで話すことができる	34.9%	60.5%	95.3%	4.7%	0.0%
11	子どもは、学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	53.5%	44.2%	97.7%	2.3%	0.0%
12	子どもは、友達に対して思いやりを持ち、お互いに協力している	46.5%	51.2%	97.7%	2.3%	0.0%
13	子どもは、家庭で任された役割があり、実行している	39.5%	39.5%	79.1%	18.6%	2.3%
14	子どもは自分の長所に気づいている	25.6%	53.5%	79.1%	20.9%	0.0%
15	子どもの自己肯定感が高まってきている	20.9%	58.1%	79.1%	20.9%	0.0%

16	子どもは、食事を欠かさず摂っている	81.4%	11.6%	93.0%	7.0%	0.0%
17	子どもは日常的に清潔にしようとしている	48.8%	41.9%	90.7%	9.3%	0.0%
18	子どもは性と生の理解を深め、自分の身体を大切にしようとしている	27.9%	53.5%	81.4%	14.0%	4.7%
19	学校の施設・設備・備品等の安全は保たれ、衛生面にも配慮されている	58.1%	37.2%	95.3%	4.7%	0.0%

20	短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	67.4%	30.2%	97.7%	2.3%	0.0%
21	子どもと卒業後の進路や生活について日頃から話をして共有している	37.2%	41.9%	79.1%	20.9%	0.0%
22	個別の相談について、学校は保護者に適切に対応している	65.1%	34.9%	100.0%	0.0%	0.0%
23	保護者として、本校の教育の趣旨や目的を理解している	51.2%	46.5%	97.7%	0.0%	2.3%
24	企業のご協力により実習ができていることを理解している	81.4%	18.6%	100.0%	0.0%	0.0%
25	地域のご協力により演習ができていることを理解している	76.7%	20.9%	97.7%	2.3%	0.0%

91.1%

	生徒	R7後期実現度				
		よく出来ている	大体出来ている	肯定的な回答の割合	あまり出来ていない	出来ていない
1	将来の夢や希望がある	26.1%	52.2%	78.3%	14.5%	7.2%
2	共通教科で「わかった」「できた」と思うことがある	35.7%	61.4%	97.1%	2.9%	0.0%
3	専門教科で「わかった」「できた」と思うことがある	44.9%	50.7%	95.7%	4.3%	0.0%
4	職場実習で「できた」「やりきった」と思うことがある	40.0%	54.3%	94.3%	2.9%	2.9%
5	いろいろな知識や技能が身につけてきていると思う	32.9%	57.1%	90.0%	10.0%	0.0%
6	先生は、なんのために勉強するのかをはっきり教えてくれる	70.0%	27.1%	97.1%	2.9%	0.0%
7	先生は、わかりやすく勉強を教えてくれる	65.7%	34.3%	100.0%	0.0%	0.0%
8	先生は、学習の成果について、伝えてくれる	52.9%	41.4%	94.3%	4.3%	1.4%
9	学習の成果を知って次の目標をたてている	28.6%	60.0%	88.6%	8.6%	2.9%

10	自分からあいさつをしたり、ていねいな言葉づかいで話すことができる	30.0%	60.0%	90.0%	10.0%	0.0%
11	学校のきまりや約束を守っている	55.7%	37.1%	92.9%	7.1%	0.0%
12	ともだちへのおもいやりをもち、お互いに協力している	54.3%	44.3%	98.6%	1.4%	0.0%
13	学校や家庭で自分に任された役割があり、実行している	47.1%	42.9%	90.0%	8.6%	1.4%
14	自分の長所がよくわかっている	35.7%	45.7%	81.4%	12.9%	5.7%
15	自分は大切な存在だ、誰かに必要とされていると感じている	37.1%	41.4%	78.6%	12.9%	8.6%

16	食事は朝・昼・夜、欠かさず食べている	48.6%	30.0%	78.6%	18.6%	2.9%
17	清潔にすることを心がけている(例えば入浴や着替え、歯みがきなど)	61.4%	37.1%	98.6%	1.4%	0.0%
18	性と生について学習し、自分の身体を大切にしながら生活をしている	53.6%	39.1%	92.8%	4.3%	2.9%
19	教室や廊下、トイレなどが安全で安心して使うことができる	70.0%	28.6%	98.6%	0.0%	1.4%

20	卒業後の進路や生活について、先生たちに相談できている	24.3%	54.3%	78.6%	17.1%	4.3%
21	卒業後の進路や生活について、保護者に相談できている	24.3%	52.9%	77.1%	17.1%	5.7%

22	企業の協力により、職場等実習ができていることがわかっている	45.7%	50.0%	95.7%	2.9%	1.4%
23	地域の協力により、校外演習ができていることがわかっている	48.6%	44.3%	92.9%	2.9%	4.3%

90.4%

前期から後期にかけて、進路・地域・実習に関する項目が大きく改善し、生徒が学校外での学びを通して成長実感を得ていることがうかがえます。実習や校外演習を経験することで、「相談できる相手の存在」や「進路への見通し」が明確になり、主体的な行動につながった点が特徴的です。
 一方で、生活規範(きまり・あいさつ)は後期にわずかに低下し、年度末に向けた生活リズムの乱れが影響した可能性があります。ただし、短い声かけや日常的な確認で十分に改善が期待できる領域ですと、継続的な働きかけが重要と捉え、実践してまいります。
 自己肯定感が大きく向上した点は、生徒理解や個別支援が確実に内面へ届いていることを示しています。また、授業理解や協力行動は前期・後期ともに安定して高く、本校の強みとして定着しています。
 今後の重点は、「生活リズム」「食生活」「家庭との協働」の3点であると考えます。これらは生徒自身の努力だけで改善しにくく、保健指導・生活指導・家庭連携の三者が連動する仕組みを整えることで、年度後半にも安定した生活を維持しやすくなります。生徒は学習・実習・対人関係の面で確かな成長を示しており、学校の取り組みが着実に成果につながっています。一方で、生活面の揺れに対しては、継続的な支援が次年度の課題であると考えます。

	教職員	R7後期実現度				
		よく出来ている	大体出来ている	肯定的な回答の割合	あまり出来ていない	出来ていない
1	児童生徒は、将来の夢や希望を描けている	15.9%	75.0%	90.9%	9.1%	0.0%
2	児童生徒は、「共通教科」で満足感や達成感をもっている	25.0%	72.7%	97.7%	2.3%	0.0%
3	児童生徒は、「専門教科」で満足感や達成感をもっている	43.2%	56.8%	100.0%	0.0%	0.0%
4	児童生徒は、「職場等実習」で満足感をもっている	31.8%	65.9%	97.7%	2.3%	0.0%
5	児童生徒は、個別の包括支援プランに沿った「生きる力」を身につけている	22.7%	65.9%	88.6%	11.4%	0.0%
6	個別の包括支援プランに基づいた計画的な指導を行っている	25.0%	63.6%	88.6%	11.4%	0.0%
7	学習効果を上げるため、指導法の改善に取り組んでいる	43.2%	52.3%	95.5%	4.5%	0.0%
8	児童生徒の努力や達成度について適切に評価をし、個別の包括支援プランの作成や指導法の改善にしている	25.0%	65.9%	90.9%	9.1%	0.0%
9	児童生徒が次の目標を持てるような評価をし、児童生徒に伝えている	43.2%	52.3%	95.5%	4.5%	0.0%

10	児童生徒は、自分から挨拶をしたり、場に応じた言葉遣いで話すことができる	31.8%	59.1%	90.9%	9.1%	0.0%
11	児童生徒は、学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	34.1%	63.6%	97.7%	2.3%	0.0%
12	児童生徒は、友だちに対して思いやりを持ち、お互いに協力している	47.7%	50.0%	97.7%	2.3%	0.0%
13	児童生徒は、学校で任された役割があり、実行している	50.0%	45.5%	95.5%	4.5%	0.0%
14	児童生徒が自己理解を深められるような取り組みをしている	25.0%	72.7%	97.7%	2.3%	0.0%
15	児童生徒の自己肯定感が高められるように意識して指導にあたっている	38.6%	59.1%	97.7%	2.3%	0.0%

16	生徒に適切な食生活を送るよう指導している	20.5%	61.4%	81.8%	18.2%	0.0%
17	生徒に衛生に関する指導・支援を行っている	22.7%	63.6%	86.4%	13.6%	0.0%
18	性と生について、生徒が正しく理解し、適切な行動がとれるよう指導・支援を行っている	38.6%	59.1%	97.7%	2.3%	0.0%
19	校内の施設・設備・備品等の安全を保ち、衛生面にも配慮している	38.6%	61.4%	100.0%	0.0%	0.0%

20	個別の包括支援プランを基に、短期目標や評価を保護者に適切に伝えている	38.6%	52.3%	90.9%	9.1%	0.0%
21	児童生徒や保護者と卒業後の進路や生活について話をして共有できている	29.5%	61.4%	90.9%	9.1%	0.0%

22	保護者からの個別の相談に適切に対応している	59.1%	38.6%	97.7%	2.3%	0.0%
23	保護者は、本校の教育の趣旨や目的を理解している	20.5%	72.7%	93.2%	6.8%	0.0%
24	生徒は、企業のご協力により実習が出来ていることを理解している	25.0%	68.2%	93.2%	6.8%	0.0%
25	生徒は、地域のご協力により演習が出来ていることを理解している	34.1%	54.5%	88.6%	11.4%	0.0%

93.7%

自己理解・自己肯定感の定着と運用(⑭・⑮)について、後期に大きな伸び(+22.5pt/+20.6pt)が見られ、児童生徒が自分の良さを実感する機会が増えていることがうかがえます。一方で、到達率は79%台で頭打ちとなっており、継続的な支援の仕組み化が今後の課題です。教員・生徒・保護者の三者がそれぞれの「良いところ(強み)」を文字で共有し、学期末だけでなく毎月の成長サイクルとして位置づけることで、振り返りの質と量が安定し、自己理解の定着がさらに促進されると考えられます。
 「将来への見通し」(①横ばい、②+9.3pt)については、全体として横ばいで推移している項目と、後期に改善が見られた項目が混在しています。単元ごとにより一度に取組むこと」の理解を家庭と学校で揃えていくことが有効と考えます。
 また「生きる力」をどのように育成しているかが、保護者のみならず十分に伝わっていない可能性が示唆されました(-1.1pt)。個別の包括支援プランに記載されている目標を、日常の生活場面に即したわかりやすい言葉に置き換え、具体的な成長を捉えやすくする必要があります。
 設備・衛生面の評価は依然として高い水準にありますが、前年度比ではわずかに低下が見られました(⑩-4.7pt)。これは「日常の体感」・「実際の改善」のギャップが要因である可能性があります。具体的には、改善前後の写真やビフォーアフターの掲示を行うことで、「見える化」によって安心感を強めることができ、数値の維持・向上につながると考えられます。

後期では、「豊かな心」領域(+4.2pt)と「教職員のみな(運営・共有)」領域(+3.8pt)が大きく向上し、生徒理解と学級・学年経営に関する取り組みが一層深化しました。特に、挨拶・言葉遣い(⑩)自己理解の支援(⑭)協力行動(⑳)など、生徒の内面や関係性に関わる項目が伸びており、日常の関わりを大切にしている指導が確実に浸透しています。また、いじめ防止基本方針(㉑)や相談内容の共有(㉒)がほぼ100%に到達し、教職員間の連携と組織的対応がより強固になった点も特徴的です。
 一方で、評価の活用(⑧)、次の目標づくり(⑨)、指導法の改善(㉑)といった「評価→指導への橋渡し」に関する項目はわずかに後退しました。年度後半の業務集中や書類負担が影響し、振り返りや共有に十分な時間を割けなかったことが背景と考えられます。今後は、評価の質を保ちつつ負担を軽減する仕組みづくりが求められます。
 生活・健康面では、衛生指導(㉑)や食生活(⑬)が相対的に弱く、生徒アンケートの傾向とも一致しています。生活リズムやセルフケアは学校だけでは改善しにくく、保健指導の年間的な見直し、短時間介入、家庭との連携体制化など、学校・家庭・生徒をつなぐ小さな仕組みが効果的であると考えます。
 総じて、教職員アンケート全体は前期93.4%→後期94.3%と極めて高い水準を維持し、本校の組織力・連携体制の安定性が確認されました。今後は、年度後半に揺れが生じやすい「評価活用」「生活指導」を中心に、負担軽減と質の確保の両立に重点をおいて取り組んでまいります。

知・確かな学力

徳・豊かな心

体・健やかな体

家庭や地域との連携